

台東区緊急医療救護所訓練参加のご報告

浅草寺病院 副院長 中山智子

平成 29 年 6 月 10 日土曜日の夕方から夜にかけて、当院において第 4 回台東区緊急医療救護所訓練が行われました。これは東日本大震災を教訓に、大規模災害により受傷された患者さんに対する迅速かつ適切な対応を訓練するため、台東区、下谷・浅草医師会・薬剤師会、東京都柔道整復師会台東支部の各職種のメンバーと担当病院が協働して実施されるものです。

第 1 回目が台東区立台東病院、第 2 回目は台東区の災害拠点病院である永寿総合病院、そして浅草寺病院と病院前での訓練は今回で 3 回目となります。

災害時のパニックの下では、すぐに手術や高度医療処置を必要とする重症例から、簡単な処方や処置で済む軽症の方まで、様々なレベルの医療的問題を抱えた方が混在・混乱して病院に押し寄せる可能性があります。病院では、このような状況下で、これらの患者さんの中から、すぐに医療を必要とする患者さんをピックアップし、速やかに対応することが求められます。

台東区では、災害時には、上記のメンバーが自身や家族の安全を確認後、区内の在宅医療に従事する訪問看護師さんらと共に病院に参集し、患者さんの対応に当たることになっています。

実際の緊急医療救護所訓練では、病院の前に一大診療所が形成されます。そこで参集した医師、看護師他が軽症（簡単な処置や処方が必要な程度、投薬のみで対応が可能なレベル）、中等症（入院処置が必要だが緊急性がない状態）、重症（すぐに手術などが必要で、差し迫った生命の危険がある状態）といった患者さんに必要な医療レベルの判断を行います。これを「トリアージ」といいます。訓練では、病院前でのトリアージにより中等症、重症と判断された患者さんの院内での対応、さらに院内の 2 次トリアージの結果、当院では対応が難しいと判断された患者さんを災害拠点病院に搬送するための連絡手段の確保やその手順の確認訓練等が行われました。

実際に発災した場合、観光地である浅草寺周辺エリアでは、観光客を含め、当院には地域で最も多くの患者さんが押し寄せるのではないかと思います。

今回の訓練では浅草観光連盟の方々にもご参加いただきましたが、実際に大災害が発生した場合には、当院の職員、関係団体の様々な職種の方々だけではなく、地域コミュニティの方々とも連携して対応することが必要であると感じました。

今回の訓練を通じて、発災時の対応については、基本的な準備、日々の訓練、反復の練習、様々な事態の想定をすることが非常に重要であると実感した次第です。今後も、このような訓練を続けて、有事の際にも患者さんから頼りにされる病院を目指し日々精進したいと考えております。

病院前緊急医療救護所訓練の様子



病院内でのトリアージと対応の訓練の様子

